

「総合日本語」の授業に関するアンケート調査:  
授業における教師の対応を改めて考える

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/39717">http://hdl.handle.net/2297/39717</a>

# 「総合日本語」の授業に関するアンケート調査 — 授業における教師の対応を改めて考える

北京師範大学 冷麗敏 坂中仁美 張蓓 林洪

## 要旨

本研究は、日本語専攻課程の学習者が主幹科目「総合日本語」の授業に対する認識を確認し、教師の授業改善を目指すものである。そのため、学習者の認識についてアンケート調査を行った。そして得られた回答について分析し、学習者の認識の特徴を把握し、教師側の対応を考えることを目的とする。小論では日本語専攻の学習者が主幹科目である「総合日本語」に対し、どのような認識を持っているかを明らかにし、教師の授業改善案を検討する。

キーワード：総合日本語、授業、学習者、教師、対応

## 1. 背景と動機

急速な社会の発展に伴い、学習者像が変容している。日本語学習者も例外ではない。目下、中国国内の英語教育にしても日本語教育にしても、教師側の一方的な言語知識の伝達重視から、より学習者の言語運用能力の養成重視への転換という教育理念が提唱されている。本研究は、中国の高等教育における日本語専攻課程の主幹科目「総合日本語」の授業の改善を目指すものである。

## 2. 先行研究及び研究目的

林 (1992 : 105) は「言語学習に対する考えが学習者と教師との間で一致しているとは限らない」と指摘し、授業では学習者が喜んで参加しているように観察された活動でも、アンケート調査の結果では学習者が好きだとする活動と役に立つと考えている活動は必ずしも一致していないとの調査結果を示している。金田 (1989 : 75) では授業における学習者の行動に注目した授業分析がなされ、授業の観察分析に加え、授業の録画を学習者に見せ、学習者の行動をインタビューで聞いたところ、「学習者は教師の期待通りに行動するとは限らない」と指摘している。また、

冷 (2003) が国内の6大学で日本語を専攻する学習者と授業の担当教師に、「総合日本語」の授業について教授活動、よい教師像、教科書を中心に意識調査を行った結果、学習者側の意識と教師側の意識とは必ずしも一致しているとは限らないことが明らかになった。

これまでの先行研究で指摘されているように、教師と学習者は各自の言語観、学習観を持って授業に参加している。そのため同一授業に対しても、両者が同じように捉えているとは限らない。このことから、教師は普段の授業改善を図るには、教師自身が教える工夫をすることはもちろんだが、それよりも、学習者が授業に対する認識について知ったうえで教師側の対応を改めて考えることが必要だと思われる。

本研究は、日本語専攻課程の学習者が主幹科目「総合日本語」の授業に対する認識（以下、学習者の認識を称する）を確認し、教師の授業改善を目指すものである。そのため、学習者の認識についてアンケート調査を行った。そして得られた回答について分析し、学習者の認識の特徴を把握し、教師側の対応を考えることを目的とする。小論では日本語専攻学習者が主幹科目である「総合日本語」に対し、どのような認識を持っているかを明らかにし、教師の授業改善案を探る。

### 3. 研究方法

#### 3.1 調査の概要

北京師範大学日本語専攻課程1年生、第2学期の「総合日本語」の授業を分析対象とした。調査対象のクラスは男性6人、女性21人、計27人。(内、韓国語・朝鮮語母語話者3人を含む) 全員ゼロスタートで、調査時は、学習時間約250時間である。教材は、『基礎日本語総合教程1』(高等教育出版社)である。27人を対象にアンケート調査し、全員の回答を回収した。

#### 3.2 分析方法

まず、調査結果のデータを収集した。次に、学習者の回答から記述のキーワードを抽出して分類した後、カテゴリー化する。最後に、各カテゴリーについて分析を行い、学習者の認識を明らかにする。

## 4. 調査の結果と分析

### 4.1 調査の結果

表1はアンケート調査の結果を示すものである。アンケートは5領域（予習、授業、復習、到達目標、教師）10項目から構成され、表1は領域ごとに質問項目をまとめ、個々のカテゴリーの人数を示している。

表1 「総合日本語」の授業に対する認識に関するアンケート調査の結果

領域	質問項目	カテゴリー	人数
予習	1. 予習をするか。	はい	12
		いいえ	14
		ときどきする	1
	2.1 予習する理由は何か。 (予習する：12人)	授業が心配	6
		教科書が難しい	4
		無	2
	2.2 以下の内容を予習する順に並べなさい。 a 単語 b 語法 c 听课文录音 d 听课文录音并朗读	a ⇒ c ⇒ d ⇒ b	4
a ⇒ d ⇒ c ⇒ b		1	
c ⇒ a ⇒ d ⇒ b		2	
c ⇒ d ⇒ b ⇒ a		1	
d ⇒ c ⇒ a ⇒ b		2	
d ⇒ a ⇒ c ⇒ b		1	
b ⇒ d ⇒ c ⇒ a		1	
2.3 予習しない理由は何か。 (予習しない：14人)	時間がない	5	
	授業の効果重視	4	
	習慣がない	2	
	無	3	
授業	3. 教師の大量で詳細な解説を聞きながらノートをとる授業についてどう思うか。	好き	15
		嫌い	6
		どちらでもない	6

「総合日本語」の授業に関するアンケート調査

<p>4.1 教師の大量で詳細な解説を聞きながらノートをとる授業が好きな理由は何か。 (好き：15人)</p>	<p>理解しやすい 文法重視 習慣 大量の知識習得 自己の負担軽減 無</p>	<p>5 3 2 2 1 2</p>
<p>4.2 教師の大量で詳細な解説を聞きながらノートをとる授業が嫌いな理由は何か。 (嫌い：6人)</p>	<p>雰囲気重視 応用重視</p>	<p>4 2</p>
<p>4.3 教師の大量で詳細な解説を聞きながらノートをとる授業が好きでも嫌いでもない理由は何か。 (好きでも嫌いでもない：6人)</p>	<p>説明の量 無</p>	<p>3 3</p>
<p>5. A～Cの授業の進め方を好きな順に並べよ。 A：教師讲解生词、语法和课文，然后带着大家做教科书上的练习。 B：学生阅读（或听）课文，遇到不懂生词或语法时，<u>和同学讨论</u>。之后，<u>教师归纳总结语法</u>。最后，<u>全班一起做练习</u>。 C：学生阅读（或听）课文，遇到不懂生词或语法时，<u>小组讨论</u>，之后，<u>学生归纳总结语法</u>，再由教师补充说明。最后，<u>分小组做练习</u>。</p>	<p>A ⇒ B ⇒ C A ⇒ C ⇒ B B ⇒ C ⇒ A B ⇒ A ⇒ C B C ⇒ B ⇒ A C ⇒ A ⇒ B</p>	<p>4 3 8 3 1 7 1</p>

応用言語学研究論集 NO6

授 業	<p>6.1A (教師讲解生词、语法和课文, 然后带着大家做教科书上的练习) の授業の進め方が一番好きな理由は何か。 (Aの進め方が一番好き: 7人)</p>	<p>過去の学習習慣 時間の有効利用 知識の正確さが保証される</p>	<p>3 2 2</p>
	<p>6.2B (学生阅读 (或听) 课文, 遇到不懂生词或语法时, 和同学讨论。之后, 教师归纳总结语法。最后, 全班一起做练习) の授業の進め方が一番好きな理由は何か。 (Bの進め方が一番好き: 12人)</p>	<p>教師が文法の総括をすれば、知識の正確さや効率を確保でき詳細に理解できる インタラクティブな学習がある 雰囲気が良い 自主的な学習がある (複数回答あり)</p>	<p>7 5 4 4</p>
	<p>6.3C (学生阅读 (或听) 课文, 遇到不懂生词或语法时, 小组讨论后, 学生归纳总结语法, 再由教师补充说明。最后, 分小组做练习) の授業の進め方が一番好きな理由は何か。 (Cの進め方が一番好き: 8人)</p>	<p>雰囲気がよい 学生の自発性が引き出せる 自主的な学習は印象が深い インタラクティブな学習がある 思考能力が鍛えられる (複数回答あり)</p>	<p>4 3 2 2 1</p>
	<p>7. 授業でわからないことがあったら、あなたはどうしますか。A~Eでよく使うのはどれですか。 A: 自己査字典或教科书等。 B: 问同桌的同学 C: 举手向老师提问。 D: 下课后问同学。</p>	<p>A经常使用 B 不大使用 C 从不使用 (人数/%) A: 22/81 B: 5/19 C: 0/0 A: 24/89 B: 3/11 C: 0/0 A: 5/18 B: 21/78</p>	

「総合日本語」の授業に関するアンケート調査

	E : 下课后问老师。	C : 1/4 A : 13/48 B : 12/45 C : 2/7 A : 10/37 B : 15/56 C : 2/7	
復 習	8. よく復習するのは何ですか。	a 背诵单词 b 做语法练习 c 听课文录音 d 朗读背诵课文 e 与同学做日语对话练习 f 其他 ドラマを見る アニメを見る 歌を聞く (複数回答あり)	21 13 22 18 5 1 2 1
到 達 目 標	9. 「総合日本語」の授業であな たが望む到達目標は何です か。	流暢な日本語でコミュニケ ーションができる 文法を身につける 文章を書く 日本文化を理解する 日本留学 語彙を学ぶ テストに合格する (複数回答あり)	22 8 3 2 2 2 1

教師	10. 「総合日本語」の授業であ なたが教師に望むことは何 ですか。	講義すること	13
		授業をデザインすること	10
		引導すること	8
		疑問に答え、評価すること	5
		インタラクティブな学習に 加わること	1
		(複数回答あり)	

#### 4.2 結果の分析

表1で示した結果について、まず領域ごとに検討し、学習者は「総合日本語」の授業に対し、どのような考えを持って授業に臨んでいるのかを明らかにする。以下、調査票の5領域についてそれぞれ、回答の結果を述べながら分析する。

##### (1) 領域：予習

領域「予習」は調査項目の1と2である。以下、項目ごとに述べる。

項目1:「予習をするか。」の回答では、「はい」12人、「いいえ」14人、「ときどきする」1人となっている。授業の前に、予習しない学習者が予習する学習者よりやや多いことが分かる。

項目 2.1:「予習をする理由は何か」の回答では、「授業が心配」が6人と一番多く、次いで「教科書が難しい」が4人である。初級の学習者、特にゼロからの初級者はまだ日本語の授業に慣れていないことと、授業に対する不安を持っていることが分かる。教師の対応としては、「その課の目標」、「授業の流れ」「学習内容」を授業開始前に学習者にきちんと伝える必要があるだろうと考えられる。

中国国内の日本語学習者の場合、「予習をするのは当たり前」という考えが従来にあり、学習者はこれまで受けてきた教育の中で、授業の前に予習をしておくことが一般的だろうと思われる。しかし、「予習が習慣」であろうという、調査(教師)側の期待どおりの回答は見られなかった。

項目 2.2:「以下の内容を予習する順に並べなさい。a 単語 b 語法 c



听课文录音 d 听课文录音并朗读」の回答では、一番に「a 単語」を選んだ学習者は5人、「c 听课文录音」と「d 听课文录音并朗读」は、それぞれ3人、「b 语法」は1名であったことから、学習者は単語や録音を聞くことなど、主に教科書を中心に予習を行っていることが明らかになった。授業前の予習として、テキストの単語や録音を聞くだけではなく、例えば、その課の話題に関して、考えてくる、調べてくるなど、「事前課題」を予習に出しておく、学習者には、授業における学習効率をさらに高めることが期待できるだろうと思われる。

項目 2.3:「予習しない理由は何か。」の回答では、「時間がない」が5人、「授業の効果を重視」が4人と大半を占めている。このことから、学習者は、授業の効果を期待しており、教室の授業に頼っていることがわかる。

## (2) 領域：授業

領域「授業」は、調査項目の3～7を含む。以下、項目ごとに述べる。

項目3は、授業の進め方に関する質問である。「教師の大量で詳細な解説を聞きながらノートをとる授業についてどう思うか。」に対し、項目4.1「好き」(15人)と答えた学習者の理由は、「理解しやすい」5人、「文法重視」3人、「大量の知識習得」2人である。このことから、学習者は授業では、日本語に関し、教師から多量の言語知識を学ぶことを期待しているようである。授業では教師の文法説明は手短に行い、学習者の知的レベルにあった効果的な文法指導を工夫する必要があるだろうと反省しているところである。

一方、項目4.2「嫌い」(6人)と答えた学習者の理由は、教師の多量な説明に対し、学習者が「眠くなる」から、「単調である」からなど、授業の「雰囲気重視」が4人で、「応用重視」が2人となっている。学習者が教師の大量で詳細な説明を好まず、練習や応用の機会を求めていることが明らかになった。

項目4.3「好きでも嫌いでもない」(6人)と答えた学習者の理由は、「適宜な説明の上、多くの例文がほしい」「文法説明は詳しくわかればよい、大量な説明は必要ない」などと挙げている。このことから、学習者は教

師の文法説明について、教師の「適度な量の説明」を求められているのである。

項目5は、A、B、Cの3タイプの授業の進め方についてである。「A～Cの授業の進め方を好きな順に並べよ。A：教師讲解生词、语法和课文，然后带着大家做教科书上的练习（教師が単語・文法・本文の説明をしてから、クラスで教科書の練習をする）。B：学生阅读（或听）课文，遇到不懂生词或语法时，和同学讨论。之后，教师归纳总结语法。最后，全班一起做练习（学習者が本文を読んで、または聞いて、分からない単語や文法があったら、クラスメートと話し合いをする。その後、教師によって文法のまとめをして、クラスで練習をする。）。C：学生阅读（或听）课文，遇到不懂生词或语法时，小组讨论，之后，学生归纳总结语法，再由教师补充说明。最后，分小组做练习。（学習者が本文を読んで、または聞いて、分からない単語や文法があったら、グループによる話し合いを行う。その後、学習者によって文法のまとめをする。最後に教師が補足や説明などをする。）」においては、学習者が一番に選んだ授業の形式は、Aが7人、Cが8人である。いわゆる従来の伝統的な進め方であるAを好む学習者と、完全に学習者主体の進め方であるCを好む学習者がほぼ同じであるということが分かった。この結果もやや調査側の予想外の結果となった。

また、Bが12人というのは、多くの学習者がすでに伝統的な授業の進め方を好むという認識から抜けだしており、さらに、どちらも完全に教師主導の授業ではないBとCの合計が20人と圧倒的に多いことから、学習者が、従来の伝統的な授業の進め方を好まず、同時に、インタラクティブな学習のある授業を望んでいることが分かる。

項目 6.1：「Aの授業の進め方が一番好きな理由は何か」に対し、「知識の正確さが保証される」は2人である。

項目 6.2：「Bの授業の進め方が一番好きな理由は何か」に対し、「教師が文法の総括をすれば、知識の正確さや効率を確保でき、詳細に理解できる」は7人である。一方、「インタラクティブな学習がある」は5人、「雰囲気がい」は4人、「自主的な学習がある」は4人である。このことから、学習者は、知識の正確さや学習効率を確保するために、教

師による文法の総括を好んでいる一方、インタラクティブな学習や「雰囲気の良い」授業を求めていることが明らかになった。

項目 6.3 : 「Cの授業の進め方が一番好きな理由は何か」に対し、「学生の自発性が引き出せる」は3人で、「自主的な学習は印象が深い」は2人、「インタラクティブな学習がある」2人と、「雰囲気がよい」は4人である。学習者が受身的な授業よりも、授業への主体的参加を強く望んでいることが伺えよう。

上述3タイプの授業の進め方に対する学習者の「好きな理由」の回答から見れば、学習者は、知識に関しては安心感のある教師主導型で講義がなされること、練習に関しては学習者間のインタラクティブな学習や自主的な学習のある「雰囲気がよい」授業が理想的だと考えていることと推測されよう。

項目 7 は授業における学習者の問題解決方法についての質問である。「授業でわからないことがあったら、あなたはどうしますか。A～Eでよく使うのはどれですか。

- A : 自己査字典或教科書等 (自分で辞書や教科書を見る)。
- B : 問同桌の同学 (隣の人に聞く)。
- C : 举手向老师提问 (手を挙げて先生に質問する)。
- D : 下课后问同学 (授業の後、クラスメートに聞く)。
- E : 下课后问老师 (授業の後、先生に質問をする)。

上記A～Eに対し、学習者が「よく使う」と選んだのは「A」22人と「B」24人である。このことから、授業では学習者が主体的に問題を解決する傾向があると考えられる。

### (3) 領域 : 復習

項目 8 は復習についての質問である。「よく復習するのは何ですか。

- a 背诵单词 (単語を暗記する)
- b 做语法练习 (文法の練習をする)
- c 听课文录音 (本文の録音を聴く)
- d 朗读背诵课文 (本文の朗読、暗記をする)
- e 与同学做日语对话练习 (クラスメートと日本語の会話練習をする)

f 其他 (その他)

項目8の回答では、「c 听课文录音」が22人、次いで、「a 背诵单词」が21人、「d 朗读背诵课文」が18人となっている。一方、「e 与同学做日语对话练习」は5人となっている。学習者の復習が教科書を中心に一人でできる内容に止まっていると言える。

(4) 領域：到達目標

領域「到達目標」は調査項目の9である。

項目9は学習者の到達目標についての質問である。「『総合日本語』の授業であなたが望む到達目標は何ですか。」に対し、「流暢な日本語でコミュニケーションができる」は22人、「文法を身につける」は8人、「日本文化を理解する」は2人、「テストに合格する」は1人となっている。このことから、学習者は日本語によるコミュニケーション志向がもつとも強い。同時に、言語知識や日本文化理解も重視している。ここで興味深いことに、「テストに合格する」ためと答えたのがわずか1人のみということから、学習者はテストのためではなく、日本語に関する実践的な能力を身につけることを強く望んでいることが伺える。これまで、受験やテストのための勉強を到達目標としていたはずの学習者だったが、専門とする日本語に関しては、実践的な能力を身につけることを到達目標としていることが本調査によって明らかになった。授業では教師が言語知識・文化理解を含めた実践的な運用能力の養成を図ることが求められているといえよう。

(5) 領域：教師

領域「教師」は調査項目の10である。

項目10は「総合日本語」の授業担当教師の役割として学習者が求めていることについての質問である。「『総合日本語』の授業であなたが教師に望むことは何ですか」に対し、「講義すること」は13人、「授業をデザインすること」は10人、「引導すること」は8人、「疑問に答え、評価すること」は5人、「インタラクティブな学習に加わること」は1人となっている。授業における教師の役割として、学習者が望んでいることは、教え導くことと、授業の設計者であることである。ここで、「教師が学習者のパートナーとしてインタラクティブな活動に加わる」に対し、学習

者の回答は1人しかいなかったことから、授業では教師がこれまでそのような役割を果たすことがあまりなかったのではないだろうか、と反省している。同時に、教師が学習者を教え導くことに加えて、学習者のパートナーとして、インタラクティブな学習をデザインし、それに加わる必要があるだろうと考えられる。

## 5. まとめ

本調査を通し、次の2つのことが言える。まず、同じ授業に対する学習者の認識は必ずしも教師が想定したものとは同じではないということである。このことは先行研究の結果との一致が見られた。次に、本調査によって学習者の授業に対する認識を明らかにした。これに基づいて、今後、教師がどう対応するかについて、授業の改善を図るための具体案が考えることができたと言える。

図1 学習者の認識に対する教師の対応

<b>Sの認識</b>	⇒	<b>Tの対応</b>
<b>(+)</b>		<b>改善</b>
例:		
・効率のいい説明を求める。		⇒効率のよい説明を行う。
・印象深いインタラクティブな学習を望む。		⇒学習者の知的レベルに合った インタラクティブな学習をデザインする。
<b>(-)</b>		<b>引導</b>
例:		
・授業は全て教師に任せる。		⇒運用能力重視へ引導する。
・受身的な授業参加を好む。		⇒主体的な授業参加へ導く。

図 1 のように、例えば、教師の対応では、「学習者は効率のよい説明を求め」ていたり、「印象深いインタラクティブな学習を望む」でいたりすることなど、学習者の認識が「プラス」に働いている場合、教師がその認識に適応するよう、「効率のよい説明」を行うことや、学習者の知的レベルに合ったインタラクティブな学習をデザインすることなど、授業を改善する具体案や対応策がより具体的に考えられるようになった。

また、「授業はすべて教師に任せる」、「受身的な授業参加を好む」でいるといった学習者の認識が「マイナス」に働いているような場合、教師が主体的な授業参加や、運用能力重視へと導くことも必要である。

## 6. 今後の課題

本研究は日本語専攻課程の主幹科目である「総合日本語」の授業を改善することを目的とし、学習者の授業に対する認識について調査を行った。その結果、学習者の認識を明らかにした。同時に授業における教師の対応について具体策を考えることができた。ここで得られた結果を活かし、教室の授業に還元し、今後さらに実践授業を行っていきたい。今回の調査は本学の学習者のみに限っていたため、その結果や結論には限界がある。また、学習者の回答に対し、教材などの要素も考慮に入れた考察を行う必要もあると考える。

## 参考文献

- 金田智子 (1987) 「日本語教育における学習者と教師の相互交渉について」『日本語教育論集』6, 国立国語研究所日本語教育センター 39-75
- 林さと子 (1992) 「授業分析における学習者の視点」『日本語教育』76 号 日本語教育学会 101-109
- 冷麗敏 (2005) 「中国の大学における「総合日本語 (精読)」に関する意識調査—学習者と教師の回答を比較して—」『日本語文化研究』創刊号国際交流基金日本語国際センター・国立国語研究所・政策研究大学院大学 59-73

冷麗敏著（2010）『高等教育中の日语教育教学研究——引发学生自主参与课堂的教师行为』，外语教学与研究出版社

曹大峰总主编 林洪主编（2010）《基础日语综合教程①》高等教育出版社